

備前市事務事業評価シート

(平成22年度事業)

事業の概要			
事業開始年度	平成17年度～		
総合計画	大項目	基本目標	01 安全で快適に暮らせるまちづくり
	中項目	基本施策	01 生活しやすいまちづくり
	小項目	施策	11 道路
事務事業名	05	道路等新設改良事業	
根拠法令・例規等			道路法
問 担当課(室)			都市整備課
合 職・氏名			土木係長 尾野田瑞穂
先 電 話			0869-64-1835
このシート作成に要した時間			7.0 時間

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的	
対象(誰・何に対して)	道路を通行する歩行者・自転車・二輪車・自動車
目的(何のために)	安全で安心して円滑に道路を通行するために。
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	道路改良により、幅員が3.5m以上となるこうじの割合を一定以上保ち、改良効果の向上を図る。

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業の実績			
目的を達成するために実施した事業	細事業名	事業の説明	優先度
	道路新設改良事業	市道の新設、拡幅、改良及び舗装をし、道路を円滑に通行できるようにする。	
	橋梁新設改良事業	新しく橋を架けたり、老朽化した橋を改良する。	
	用地購入事務	市道の新設や拡幅するための用地を購入する。	

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業費等		単位	平成20年度実績	平成21年度実績	平成22年度実績
決算額	直接事業費		89,493	154,292	420,574
	必要人員(人件費)	千円	4.16人	25,986	6.01人
	事業費		115,479	183,112	460,579
	国県支出金		16,000	25,217	243,512
	受益者負担				
	繰入金	千円		38,600	
その他()					
一般財源			60,879	157,895	217,067
受益者負担比率	%		-	-	-
結果指標名		単位	平成20年度実績	平成21年度実績	平成22年度実績
道路改良延長	説明		改良工事後に幅員が3.5m以上になった道路の延長		
結果指標	結果指標量	m	1,421	1,945	3,487
	対前年比	%	-	136.9%	179.3%
	活動コスト	円	52,638,600	77,353,450	209,411,000
	単位当たりコスト	円	37,043	39,770	60,055

事業の成果					
成果指標名	年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度目標値
改良工事に占める幅員3.5m以上改良延長の割合	目標値(A)	65	65	65	65
	実績値(B)	81	75	46	到達目標値
	達成率(B/A)	124.62%	115.38%	70.77%	毎年度

成果指標設定の考え方・式や説明
幅員3.5m以上改良延長 / 改良延長

事務事業の評価		5段階評価(A~E)のランク基準 A:高い B:やや高い C:普通 D:やや低い E:低い	妥当性評価 <A~E>
妥当性の評価	市の関与の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 市が実施するよう法令で義務づけられている <input type="checkbox"/> 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす <input type="checkbox"/> 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 事業の内容が一部の受益者に偏っている <input type="checkbox"/> 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input checked="" type="checkbox"/> 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある <input checked="" type="checkbox"/> 市民・団体等から要望・要請が強い	A
	市民ニーズ	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは前年度と比較して改善している <input type="checkbox"/> 実施方法(派遣・委託等)を見直すことでコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> 受益者負担率は適正である <input type="checkbox"/> 受益者負担率を見直す余地がある <input type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある <input type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	C
効率性の評価	コスト	<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input type="checkbox"/> 成果指標の到達目標値は達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない <input type="checkbox"/> 法定事務・内部管理事務 であり成果は求めにくい <input type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参加している	B

事業の目的やその数値目標がある成果指標に留意しながら効率性を評価

進行年度(H23年度)の改革改善内容						
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止・完了
説明	用地協力が得られ、事業効果の高いところから重点的に整備をしていく。					

総合評価	5段階評価(A~E)のランク基準 A:高い B:やや高い C:普通 D:やや低い E:低い	評価区分 <A~E>
国からの臨時的な交付金で、事業費が増えたことにより、拡幅改良よりも防災的な改良や道路側溝の改良などを重点的に実施したため、成果指標の実績値は下がったが、生活に密着した道路の整備はできた。		B

平成24年度の方向性・取組目標						
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止・完了
取組目標	コスト削減を考え、用地協力の得られたところ、事業効果の大きいところから重点的に道路整備を行っていく。					